

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターふれも		
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年9月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 51
○従業者評価実施期間	令和6年9月10日		～ 令和6年9月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達状態に応じたきめ細かい個別支援及び小集団での支援プログラムが形成されている。また、支援プログラムは子どもの成長に合わせたものを提供している。</li> <li>子どもとの関りが多く、一緒に遊ぶ時間(玩具、ゲーム、パズル等)や話を聞く時間を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達段階に応じた個別支援(歌や手遊びなど遊びを通して)ができています。</li> <li>支援プログラムは長期間にわたって固定化せず、成長の段階に合わせて、個別の課題や月替わり活動・レクリエーションを変化を持たせて提供している。</li> <li>子どもとの支援時間を大切に、興味のある事は、可能な範囲でかなえたいと思っている。支援者が子どもと一緒に興味を持てるよう努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの特性(発達段階)や保護者のニーズに合わせた、より具体的な個別支援計画及の作成に取り組む。</li> <li>必要に応じて支援プログラムのフィードバックや新しい取り組みを、ケース会議やスタッフ会議を開催して立案している。</li> <li>今後も子どもと話をする時間を大切にしていける。</li> </ul>
2	保護者支援及び関係機関連携に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行利用している保育園、他事業所等との連携により、情報の共有や共通理解ができています。</li> <li>保護者のニーズをしっかりと聞き入れ、寄り添った支援ができています。</li> <li>保護者と情報共有することで、家庭的なきめ細やかな支援ができています。(基本的生活動作の習得・ソーシャルスキル・コミュニケーションスキルなど) 個別学習・日替わり活動(運動療育・SSTなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者支援については、支援後の情報提供の機会を通じて具体的に伝達したり、必要に応じてタイムリーに面談もしくは電話等でお知らせしたりする。</li> <li>子どもの特性(発達の様子)のとらえ方や支援(療育)における保育園、他事業所との連携が、タイムリーに共有できるように伝えていく。</li> <li>ペアレントトレーニングの充実化を図る。</li> </ul>
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職による支援が本事業所の特徴である。しかし、転退職員に対する補充が必要となる時、専門的スキルや資格を持った職員を補充するのが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士・言語聴覚士・心理的支援など専門職による直接支援が望まれる。現段階では人材がそろっているが、複数の職員が転職や退職となった時、過疎化の進む近隣地域からの人材確保が極めて難しくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な人材が確保できるまでの間、現有の直接支援者が研修を重ね専門性につながる支援に取り組まなくてはならないので、事業所内外での研修を充実させていく。</li> </ul>
2	放課後等デイサービス事業所が併設されているため療育室の環境整備が必要となる。 事業所の場所が細い道に面しているため、車で迎えに行きにくい、場所が分かりにくい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後等デイサービスの事業所が併設されているため、すべてのスペースが児童発達支援専用の療育室になりにくい。</li> <li>住宅街なので、目印が少なく、場所の説明がしにくい。道も細いので、大きな車では通りにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸や扉、パーテーションで間仕切りをするなど、可能な限り刺激物を遮断し、集中しやすい環境整備を行う。</li> <li>看板を明確に掲示したり、ホームページ等で確認できるように配慮する。</li> </ul>
3	子どもに対する家族の対応力向上のための「ペアレントトレーニング」等や家族が参加できる研修の場の提供及び情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの個別相談に対するアドバイスや助言はできているが、多くの保護者を対象とした研修や情報提供の取り組みはできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は年間計画に研修等を組み込むなど、子どもに対する家族の対応力向上につなげていく。</li> </ul>

